

箱根ラリック美術館 特別企画

「ルネ・ラリック 日曜日の庭 クレールフォンテーヌへの招待状」

2013.03

箱根ラリック美術館では、特別企画「ルネ・ラリック 日曜日の庭 クレールフォンテーヌへの招待状」を2013年6月1日(土)～12月1日(日)まで開催します。フランスを代表するジュエリーとガラスの工芸作家、ルネ・ラリック(1860-1945)の作品を展示する箱根ラリック美術館は、2013年3月で開館8周年を迎えます。

特別企画概要

ラリックが家族と休日を楽しんだパリ郊外のクレールフォンテーヌ。ラリック作品の原風景は、その静けさに包まれた自然の中にありました。水辺や庭で感じたイメージは、自然豊かな地で育ったラリックの創作意欲を駆り立たせ、ほどなく作品として私たちの前に姿を現したのです。その過程を体感していただけるような展覧会です。

1898年、ラリックは愛する妻アリスのために別荘を購入します。選んだのは美しい森がある、パリ郊外のクレールフォンテーヌ。そこでの休日を過ごすラリック家を記した写真(右上)からは、寸暇を惜しんで日々作品制作に打ち込んでいたラリックが、ここでの時間をどれほど大切にしていたかが伝わってきます。

またラリックは、当時最新式だったコダックのポータブルカメラを手に、クレールフォンテーヌの森の木々や、池を泳ぐ白鳥たちを撮影し、作品制作の際に助けとなる自分だけの“引き出し”に大切にしまっていました。

ラリックがパリに建てた邸宅のファサードには、トウヒ並木が全面に渡って描かれています。生まれ故郷のシャンパーニュ地方やクレールフォンテーヌの風景をパリまで持っていこうとしたほど、ラリックは自然に囲まれて過ごした思い出をこよなく愛していたのでしょう。

芸術を人々の生活に浸透させることで、豊かな生き方が実現することを願ったラリック。作品を手にした人たちに、ラリック自身が目にした木や葉、生き物たちの息吹を感じてもらいたい。その彼の想いが実現するような展覧会です。

展示の特徴

通常は閉ざされた展示室に置かれている作品を、自然光あふれる空間に配し、太陽の光を通して鑑賞していただきます。陽の移ろいにつれ、作品の表情が変化していく様子も体験できます。背景の箱根の草花と共に、新しいラリックの世界を発見してください。

また、ラリックや娘スザンヌが語ったクレールフォンテーヌでのエピソードや、ラリックが愛したフランスの詩人ラマルティエヌの詩、ラリックが撮影した写真(複製)などを交えて、作品をより多角的に感じ取っていただけます。



クレールフォンテーヌで過ごすラリック家



作品の展示イメージ

左2点/香水瓶「レリーフ」1924年

右/香水瓶「カーネーション」1927年

※企画展では、作品は展示ケースに入れて展示します



箱根ラリック美術館の庭園



LALIQUE MUSEUM, HAKONE

クレールフォンテーヌ

パリ郊外、車で約一時間の場所にクレールフォンテーヌは位置しています。ランヴェイエという名の豊かな森の中にラルリックの別荘はありました。

タイアップイベント

本企画展では、御殿場の秩父宮記念公園とタイアップ。公園で採集した押葉標本を展示します。ラルリック作品にも登場する身近な植物の実物標本を、透明感あふれる自然光の中でご覧いただけます。

2階企画展示室では、秩父宮記念公園で好評を博している「花だより」の原画展を開催。また、秩父宮記念公園内では、箱根ラルリック美術館がパネルで紹介されます。（原画展とパネル紹介は3月1日から）

秩父宮記念公園(静岡県御殿場市)

秩父宮記念公園は、かつて秩父宮^{やすひと}雍仁親王同妃両殿下が戦中戦後の時期を過ごされた御殿場御別邸です。静けさの中で見ごろの植物を觀賞しながら散策できる、お勧めの場所です。

企画展関連イベント

その他にも、美術館の庭園でのスケッチ大会や夏休みのワークショップなど、イベントも多数予定しています。

また、レストランでは、企画展示スペシャルメニューとして、ピクニックランチなども計画中です。



フランス地図



「花だより」原画イメージ



ワークショップの様子



特別企画

「ルネ・ラリック 日曜日の庭 クレールフォンテーヌへの招待状」概要

期 間 2013年6月1日(土)～12月1日(日)

会 場 箱根ラリック美術館 (常設展示室1階 ジュエリー・コーナー、
ベル・エポックの部屋、サロン・ド・サラ)

出展作品 ルネ・ラリック作

香水瓶「クレールフォンテーヌ」1931年

香水瓶「レリーフ」フォルヴィル社 1924年

香水瓶「カーネーション」1927年 など約70点

協 力 秩父宮記念公園、ニコル・マリッチ＝アヴィランド
(五十音順、敬称略)



ルネ・ラリック作
香水瓶「クレールフォンテーヌ」1931年

春季特別展示「パピオンをおいかけて」

どこからともなく飛んできて、春の訪れを知らせてくれる蝶。^{さなぎ}蛹の姿からは想像できない美しさは、古くから、美術品や工芸品の題材として扱われています。

蝶は、フランス語で「パピヨン」。その語源は、ひらひら、ぱたぱたしたものを示すラテン語に由来します。色や形が美しく愛らしい姿で飛翔する蝶にラリックも魅了され、多くの作品を残しています。ラリックが幼い頃を過ごした、ブドウ畑の広がる故郷、シャンパーニュ地方。そこでは、作品の源泉となった蝶がたくさん舞っていたにちがいありません。

今回の展示では、海外の蝶の標本や蝶が描かれた世界の切手も、あわせて展示予定です。

加えてGW期間中は、ご家族みんなで楽しめるような蝶が舞うワークショップも計画中です。

期 間 2013年3月30日(土)～5月19日(日)

会 場 箱根ラリック美術館 2階常設展示室

出展作品 ルネ・ラリック作

ブローチ「蝶の妖精」1897-1899年頃 など10数点

協 力 神奈川県立生命の星・地球博物館



ルネ・ラリック作
ブローチ「蝶の妖精」1897-1899年頃



ワークショップの作品(イメージ)
「ぺたぺたはるよ! いろいろちようちよ」





施設概要

施設名称	箱根ラリック美術館 (LALIQUE MUSEUM, HAKONE)
所在地	〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1 TEL : 0460-84-2255 FAX : 0460-84-2271 URL : www.lalique-museum.com
開館日	2005年3月19日 (土)
営業時間	午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)
営業日	年中無休 (展示替のため臨時休館あり)
美術館入館料	大人 1,500円 高校生、大学生、シニア (65歳以上) 1,300円 小学生、中学生 800円 ※レストラン、ショップ、庭園の入場は無料です
施設内容	敷地総面積 13,004.50㎡ 美術館棟 2,601.30㎡ ミュージアム・ゲート 70.78㎡ 特別展示 オリент急行サロンカー カフェレストラン・LYS 1,083.45㎡ 店内100席 テラス100席 ショップ・パッサージュ 827.93㎡ 庭園 (池、小川、蝶の森)
専用駐車場	第一駐車場 (100台) 1日300円 第二駐車場 (100台) 無料
アクセス	電車・バスをご利用の場合 ■箱根登山鉄道「箱根湯本駅」より、箱根登山バス「湖尻・桃源台」行きにて約30分 「仙石案内所前」下車すぐ ■小田急箱根高速バス「新宿駅」より約120分「箱根仙石案内所」下車すぐ ■箱根施設めぐりバス「箱根ラリック美術館」下車すぐ ■小田急箱根高速バス羽田線「羽田空港」より「横浜駅東口バスターミナル (そごう横浜店)」 「御殿場駅」経由約150～165分 「箱根仙石案内所」下車すぐ 車をご利用の場合 ■東名御殿場I.C.より乙女峠経由、仙石原まで約20分
設計・施工	鹿島建設株式会社、株式会社丹青社
事業主	株式会社ル・ミューゼハタ
本社所在地	東京都中央区銀座4丁目4番5号
代表者	代表取締役 旗 功泰

本件及び取材等に関するお問い合わせ先 箱根ラリック美術館 P R 担当:株式会社小田急エージェンシー tel :03-3344-5988
貴誌(紙)・貴番組にて掲載いただく際の読者からのお問い合わせ先 箱根ラリック美術館 tel :0460-84-2255



LALIQUE MUSEUM, HAKONE